

3 新都心軸構想のコンセプト

- 新都心軸の形成により、津市全体を活性化するイメージを、コンセプトにより表現しました。

新都心軸構想のコンセプト

『つなげる・つたえる・つどう』

つなげる (交流・連携)

- ① 陸と海の拠点整備により、街の拠点（中心市街地）と広域圏とをつなげます。
- ② 陸と海の拠点を、街の拠点（中心市街地）とつなげます。

つたえる (もてなし)

- ③ 津の個性や独自性、市民の愛着・一体感（津らしさ）を確立し、まちの演出を通じて、広域圏に情報発信します。
- ④ 各拠点の優れた交通条件や資源（海、歴史・文化、緑）を活かして来訪者をもてなし、温かい心を伝えます。

つどう (いやし、賑わい)

- ⑤ 南北都心軸に不足している「癒し」につながる機能（健康スポーツ、憩い）を強化して、賑わいを誘導します。
- ⑥ 「癒し」につながる機能と、南北都心軸が有する行政、商業、業務、文化、教育機能等とが一体となって、賑わいを誘導します。

4 構想の実現に向けて

- 各拠点地区および新都心軸の形成を目指して、各拠点の核となる施設整備や、公共交通機関の利用促進などを進めていきます。
- 地域の特性を重視し、地域の価値を高めるため、市民・商店街・事業者・行政等が一体となり、まちづくり活動を進めていきます。

【お問い合わせ先】 津市 都市計画部 都市整備課 TEL:059-229-3370

「新都心軸」構想

津IC周辺～大門・丸之内～津なぎさまちの交流連携強化に向けて

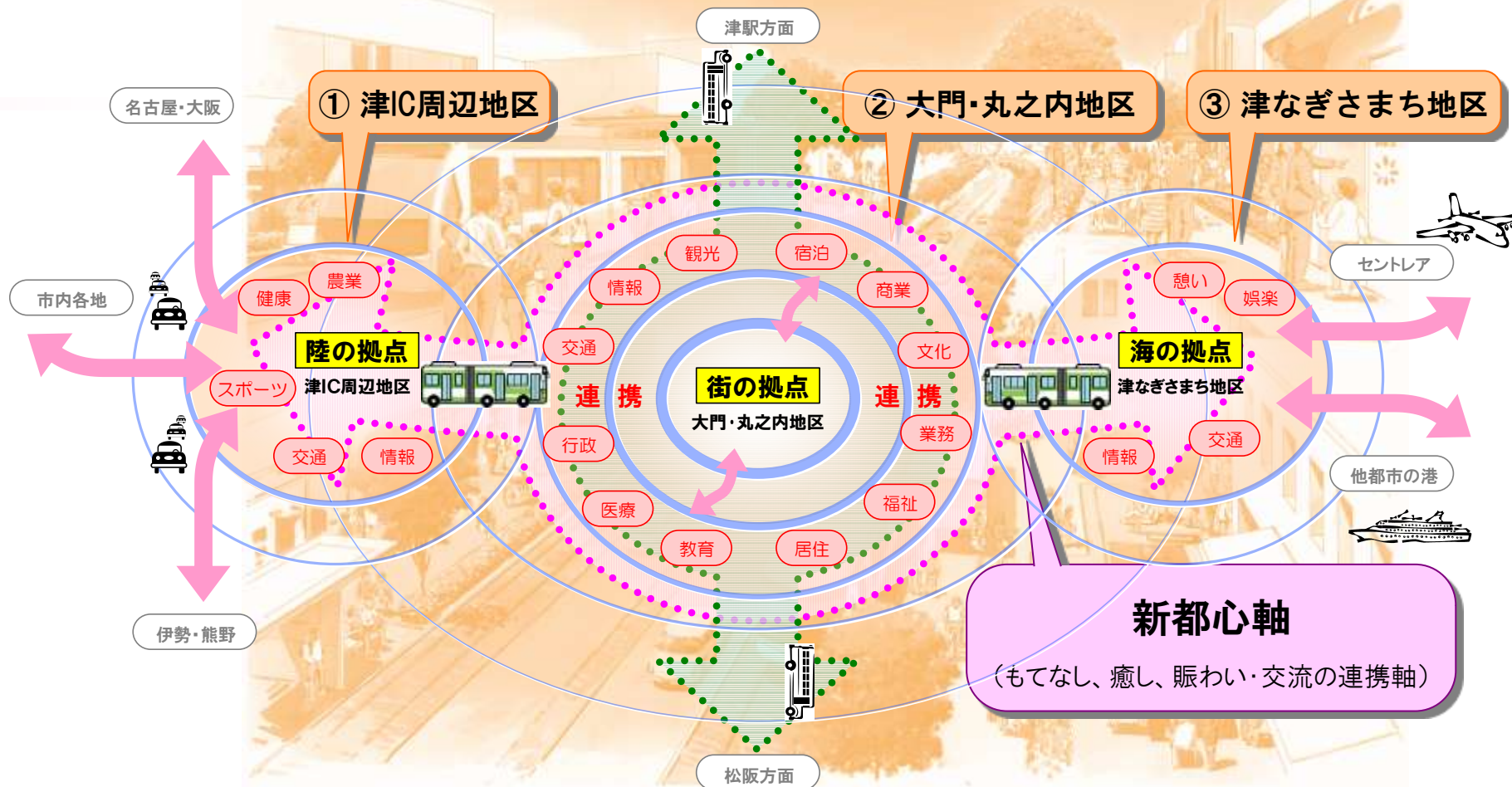
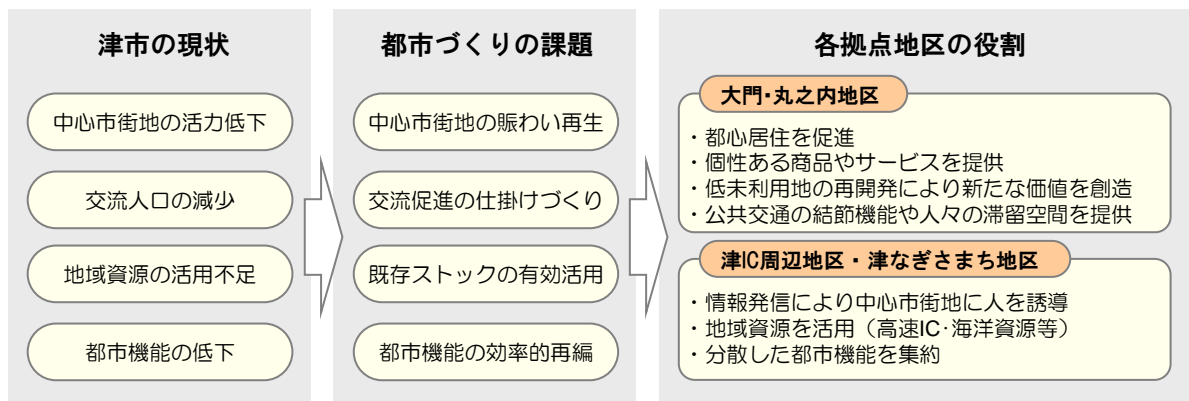


1 新都心軸とは

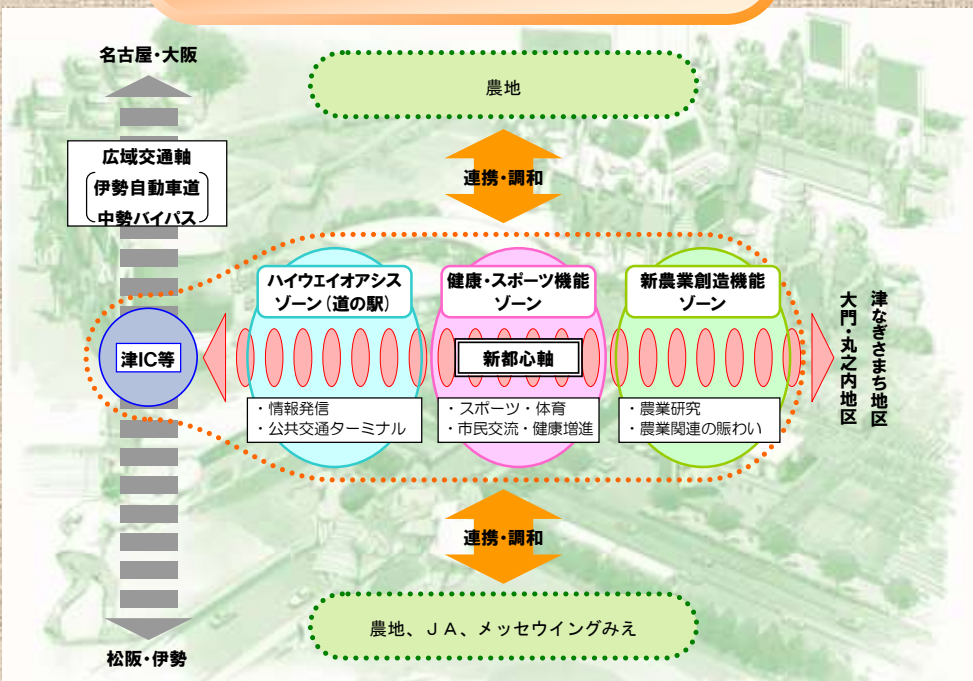
- 本市の市街地は、国道23号や鉄道を軸として、主に南北方向に形成されています。
- しかし、中心市街地である「大門・丸之内」と、広域交通の玄関口である「津IC周辺」や海上交通の玄関口である「津なぎさまち」とを結ぶ東西方向には軸がなく、交流連携が弱い状況にあります。
- そこで、「津IC周辺」～「大門・丸之内」～「津なぎさまち」とを結ぶ東西方向の連携軸を『新都心軸』と称して、交流連携の強化や、新たな都市機能の誘導に向けて、基本的な考え方などをモデル的に検討しています。

2 新都心軸の形成イメージ

- 南北方向の都心軸で不足する都市機能を補いながら、二つの軸が一体となって、津市全体の活性化を誘導します。
- 各拠点地区の連携強化により、広域的な交流を促進するとともに、新たな都市景観を創造します。

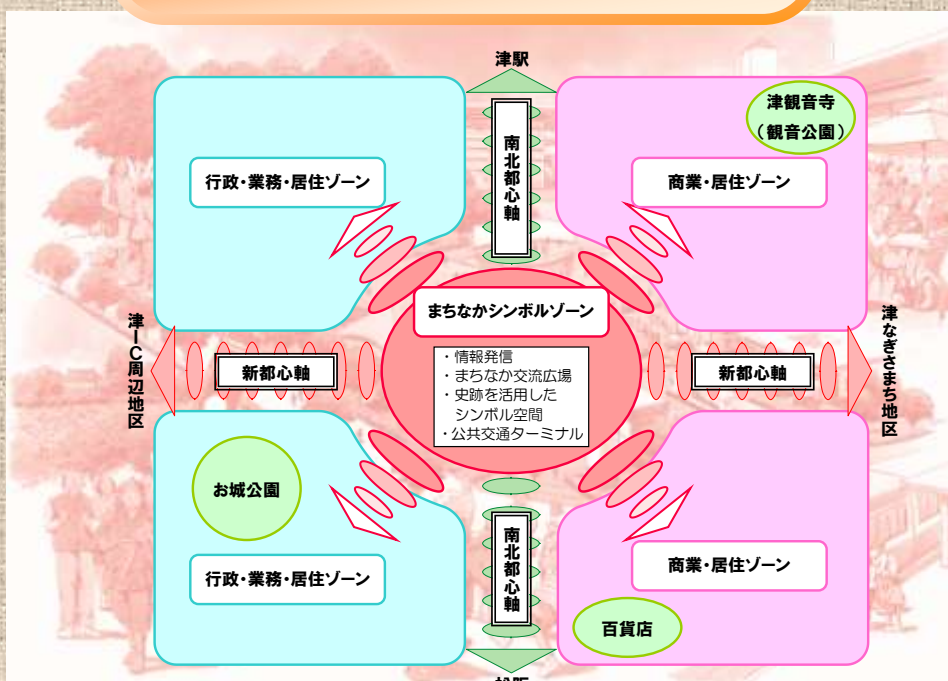


① 津IC周辺地区の形成イメージ



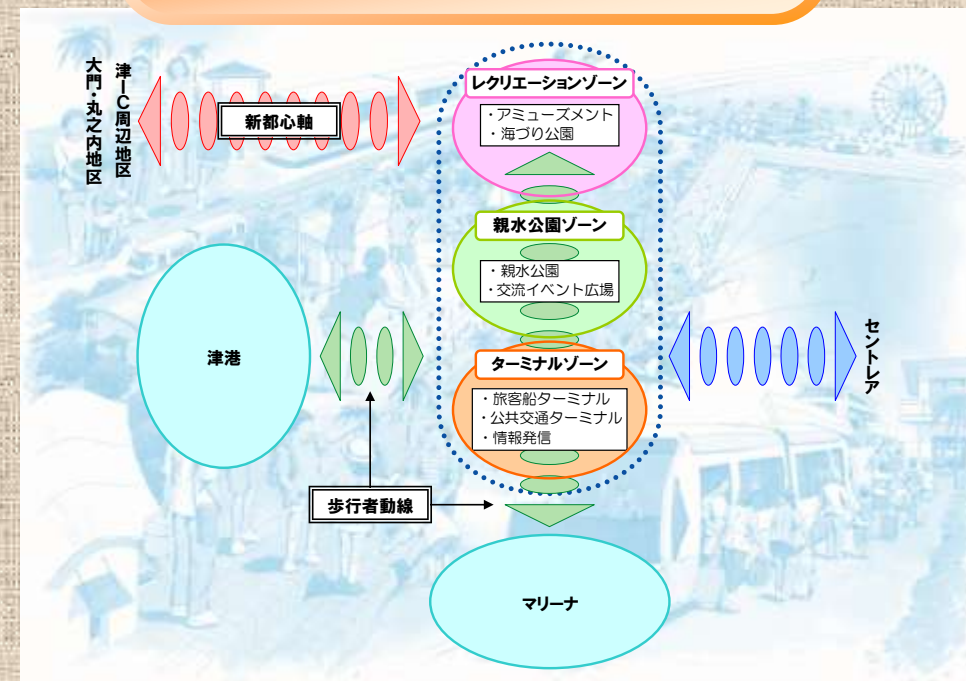
- 伊勢自動車道、中勢バイパスといった優れた交通条件を活かし、農業との調和を図る中で、南北都心軸で不足する健康・スポーツに係る施設整備や、情報発信機能の導入を進めます。
- 企業立地の動向等、社会経済情勢の変化を見極めつつ、新たな産業機能の導入について検討します。

② 大門・丸之内地区の形成イメージ



- 南北都心軸と新都心軸の交点に位置する中心市街地においては、歴史・文化といった地域資源を活かし、商業、居住、観光といった都市機能や、教育、文化、交流などの市民活動等、多様な機能が集積・複合化した賑わいの核を形成します。

③ 津なぎさまち地区の形成イメージ



- 中部国際空港につながる優れた交通条件を活かしながら、他都市の港との連携や情報発信機能の強化等、親水性を活かした憩いの空間づくりを進めます。

連携イメージ

- 大門・丸之内地区を核として、三つの拠点地区の連携を強化するため、各拠点地区での交通結節機能の強化とともに拠点間を連結する公共交通サービスの導入を図ります。
- 新都心軸は広域的な交流の受け皿としても機能するため、魅力あるランドマークの整備や、津港跡部線沿道での良好な景観づくりにより、津を演出します。